



武蔵村山市立小・中学校

# 学校図書館だより

— 本で育つ 本でつなぐ —



発行 武蔵村山市教育委員会

編集 武蔵村山市学校図書館活用推進プロジェクト学校図書館だより編集委員会

## 親子で育む

### 読書の絆

武蔵村山市教育委員会

教育長 持田 浩志



武蔵村山市のすべての小・中学校に配置した学校司書のみならず、

さんによる様々な工夫により、児童・生徒の読書意欲がますます向上していると感じております。読書は、想像力や考える力を身に付けるだけでなく、豊かな感性や情操、思いやりの心を育むことができます。子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、国会に報告された「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」において、「子どもの読書活動を促すためには、最も身近な存在である保護者が、子どもと共に読書の楽しさを分かち合い、読書に親しむことが有効である。」と記されております。

「読書」を親子が触れ合う機会の一つとして有効に活用していただき、親子の絆を深めていただければ幸いです。

## 学校司書の活動と学校図書館の充実

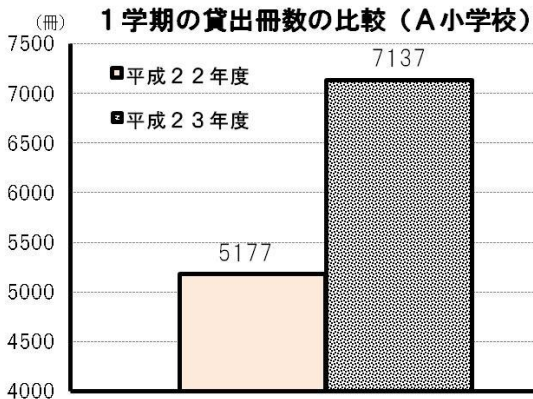
小学校及び中学校学習指導要領では、学校図書館の計画的な利活用を図ることが示されています。また、小学校では国語、社会及び総合的な学習の時間、中学校ではそれに加えて美術といった各教科等においても、その活用について明記されています。本市教育委員会では、児童・生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を促進するため、平成21年8月から市内全小・中学校において学校司書を配置し、学校図書館の充実を図っております。

学校司書の勤務は、平成21年度は1校につき週2日、平成22年度は週3日、今年度は週3日を基本としながらも、規模の大きい学校においては週4日と、毎年体制の拡充を図ってきたところです。

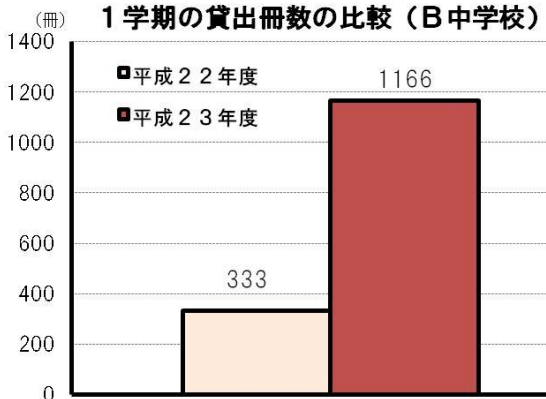
下の2つのグラフは、ある小・中学校における1学期の貸出冊数の比較です。平成23年度は平成22年度に比べ、貸出冊数の大幅な増加が認められます。B中学校では、平成22

年度の年間貸出冊数が1176冊でした。平成23年度は1学期間でほぼ同数の本が貸し出されています。この後のページで紹介するそれぞれの学校司書の工夫が、結果として表れていることが分かります。

1学期の貸出冊数の比較 (A小学校)



1学期の貸出冊数の比較 (B中学校)



## 増加する図書への貸出 各学校での学校司書の取組

学校図書館の目的として、「学校の教育課程の展開に寄与すること」「児童・生徒の健全な教養を育成すること」の2つがあげられます。

各学校の学校図書館では、2年の月日をかけて蔵書の充実と読書環境の整備に努めてまいりました。その結果、市内14校の学校図書館が見違えるほど充実してきました。

また、学校教育では、学校図書館の重要性を踏まえ、「自ら学ぶ力」や「情報活用能力」を育て、言語能力の向上を目指した取組を展開しています。

さらに、学校司書は、月1回の連絡会を通じて、児童・生徒の読書意欲の向上を目指し、ブックトークや調べ学習の支援に取り組んでいます。

### 親子読書の習慣化

#### 第一小学校 学校司書

元木 愛枝

本校では、「読書のある生活習慣を推進し、家族とのふれあいを深め、

家族の一員として豊かに生活しようとする意欲を高める」ことをねらいとした、「親子読書週間」を年三回実施しています。

6・11・2月の親子読書週間には、図書室の貸し出しカードとは別に「読書カード」を配布し、期間中に読んだ本の題名を記録します。心に残った本を1冊選んで感想を書き、最後に、読書週間中の子供の様子や感想を保護者の方に記入していただきます。

6月の親子読書週間では、保護者の方に次のような感想を寄せていただきました。

「今までは読んでもらう楽しさしか知らなかったのに、学校へ行き始めてから、文字を読む楽しさを感じたようです。読書週間中も家にある本を自分で選んだり、一緒に図書館へ行行って探したりしました。」(低学年)  
「読書週間中はいつもより多くの本を読むことができます。一人で読書をするのが多くなりましたが、今回は久しぶりに読み聞かせをしました。声に出して親子で読むのも楽しかったです。」(中学年)

「大好きな読書は毎日欠かしたことがありません。親子で図書館へ行き、

本屋にも行き、さらに友達とも図書館に行っていました。家族で読書を楽しむことができました。」(高学年)

朝読書と図書の授業、そして年間継続してきた親子読書週間の取組が、主体的に本に親しむ子供たちを育んでいます。また、本を通して、親子の触れ合いも深まっているようです。

### 読書欲を育てる指導

#### 第二小学校 学校司書

青葉 利枝

本校では本年度、東京都教育委員会「言語能力向上推進事業校」の指定を受けました。活字に親しむ学校づくりを通じた言語能力の向上を目標に、今まで以上に読書に親しむ環境作りを整えていきたいです。

まず、年間の読書目標として、低学年は100冊、高学年は1万ページを掲げています。読んだ本を読書ノートに記録し、高学年は20冊ごとに印象に残った表現や、短い感想文を書くことになっており、低学年は、読んだ本ごとに、気持ちを記号で付けることになっています。すでに、低学年で45名、高学年で17名が目標



を達成しています。また、読書ノートには各学年での推薦図書も掲載し、2年に働きかけています。

また、年3回ある読書週間では、図書委員による読み聞かせや、おすすめ本の紹介などを行っています。読み聞かせは、集会や朝読書、給食時に放送やスクリーンを使ったり、各教室で行ったりしています。低学年の読み聞かせでは、ただ、本を読むだけでなく、クイズを取り入れるなどの工夫をしています。また、おすすめの本の紹介をテレビ放送で行い、その後はイラスト入りの紹介文を図書室に掲示しています。

図書室では、季節や行事などに関する本で、子供の利用の少ないものを中心に掲示しています。同じ著者の別の作品を紹介するなど、新しい発見ができるようなコーナーにしています。

### 読書目標

第三小学校 学校司書

長谷川雅美

本校では、全学年で一年を通して「読書の記録」を付けています。これは本を読むたびに書名と日付などを記入し、自分の読書の振り返りができるのです。

学年ごとに目標冊数があり、1・2年生は150冊、3・4年生は100冊、5・6年生は50冊です。

目標を達成すると、校長先生から表彰状が頂けます。そして、好きな本と一緒に写真を撮り、その写真は図書室に飾られます。

9月になり、夏休みに読書をがんばった子供たちが図書室に来て、「こんなに読んだよ!」と「読書の記録」を見せてくれます。この取組は4年ほど前から継続して行われており、子供たちの励みになっていると感じ

ます。

このような子供の読書意欲を高める取組は、担任の先生方の指導や学校全体の協力がなくてはできません。

これからも様々な工夫を行い、子供たちがおもしろい本と出会い、読む力が付けられるような支援をしていきたいと思っています。



### 読書欲を高める取組

第七小学校 学校司書

稲葉 智子

本校では、一年間の読書目標を掲げています。少しでも目標に近づけるように様々な努力をしています。

5月には、季節のポスターでこのぼりを作成し、カウンターに兜を飾り、行事に関連した本を並べました。「かわいいね」「どうやって作るの?」など、子供たちが声を掛けてくれました。学校図書館が明るくなるよう、常に心掛けています。

書架の配置替えをして、国語の教

科書コーナーを設けました。なかなか本を選びができない子供には、実際に本を読んで、その子にあった本と一緒に探しています。

子供たちが小学校生活6年間の中で、心に残る本に一冊でも多く出会えるきっかけづくりを、これからも続けていきたいです。



### 伝えたいことは山ほど

第九小学校 学校司書

海野 幸子

この仕事に就いてから丸2年。今年度は、授業や図書を活用について先生方とお話する機会が増えたので、レファレンスだけでなく図書室でも連動して本を特集し、朗読するなど、絵本読みから更に一步踏み込んだかわり方ができるようにしました。

授業以外の取組では、季節の行事や最近のニュースで「おすすめの本」コーナーを作り、いろいろな種類の

本が児童の目に付くよう工夫しています。このとき、おすすめの内容に関連するもの、例えば、七夕のときは笹飾りを置くなど、好奇心と知識と読書がつながる空間になるよう展示しています。

また、今年度は特に、「折り紙」が読書の普及に役立ちました。図書室に飾り、子供たちの評判が良かったものを図書カード更新のオマケに付けたところ、4年生児童の3分の2が、夏休み前に2枚目のカードに突入しました。ランドセル、おたまじやくしなど立体的な折り紙が好評のようです。

子供たちは、ちょっとしたのもでも興味を示し、反応を返してくれました。学校の中でも校外でも、「あつ、海野さん」と、UFOと遭遇したように声をかけてくれる子供たち。まだまだ書きたい事はたくさんありますが、それはまた、次の機会といたします。

### 図書室とわらべボランティア

村山学園小学部学校司書

千葉 昌世

子供たちは読み聞かせが大好きで

す。特に、「わらべの読み聞かせサークル」による年2回の全校対象の読み聞かせと、図書準備室で行われる毎月の読み聞かせを楽しみにしています。担任と「わらべ」の都合の良い日時を合わせるのが大変ですが、子供たちから「次はいつやるの。」「中休みの読み聞かせ、今日だよね。」などと言われると、企画してよかったです。と思います。

図書室を支えている図書ボランティア。これは、年度初め、保護者を募集して一年間活動します。準備室や自宅で作った飾りをディスプレイしたり、絵本にラベルを貼ったりしています。司書がいる日時に自由に活動しているので、「参加しやすい。」「他の学年の保護者と話ができて楽しい。」と好評です。

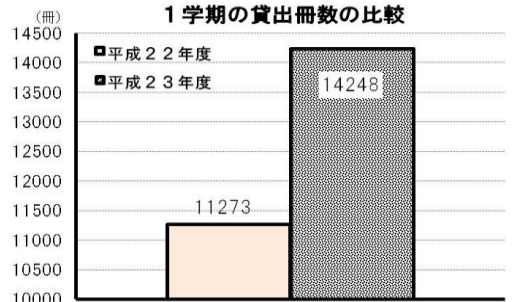
### 伸び続ける貸出冊数

第十小学校 学校司書

木村 清子

本校では、毎週火曜日の朝読書をはじめ、年2回の読書旬間等に学校全体で読書活動に積極的に取り組んでいます。

1学期の貸出冊数の比較



ラフは前年度と今年度を比較した貸出冊数の推移です。

今年度の取組としては、子供たちが自分から進んで本を借りることができるように「図書室の使い方」のしおりを全校児童に配布しました。簡単な十進分類表も付けてみたところ、これを見ながら本を探す子供たちも出てきました。

また、図書委員会の活動も活発で、教室への出張おはなし会も好評です。本校の子供たちは本が大好きです。本の紹介カードは毎回たくさん数が集まります。

猛暑だった今年の夏休み、3日間の貸出日に約100人が図書室を利用しました。

市内で一番大きな小学校ですが、

特に、朝読書は地域ボランティアや保護者の方々が熱心に協力してくださり、大きな成果が現れています。

右上のグ



元気な子供たちの大好きな場所になるよう、季節のディスプレイや新刊案内、貸出ラシキング

きたいです。

### 図書委員会生徒による活動

第一中学校 学校司書

栗原千代子

本校では、図書委員会の活動として、毎日の昼休みに本の貸出しや整理、本棚の掃除、整理整頓等を行っています。生徒への新刊の紹介も大きな活動の一つです。感想を書いたりポスター、ポップを描いて展示したりして紹介しています。

子供の読書活動についての基本理念には、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くこ



書活動ができるよう(後略)(平成13年 子どもの読書活動の推進に関する法律)」とあります。

この一環として、今年度は図書委員の紹介をする等、語りを取り入れることができました。聞いている人に見えるような本の持ち方・話し方、間の取り方などを、何回か練習し本番に臨みました。

本の面白さ、楽しさを伝えるとともに、演じている本人も緊張の中に本の楽しさと表現の大切さを学んでくれたのではないかと思います。

とのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読

### 【編集委員】

- 第一小学校 元木 愛枝
- 第八小学校 杉山 薫
- 村山学園小学部 千葉 昌世
- 村山学園中学部 篠 洋子
- 第五中学校 西久保静江